

## 歴史探訪 Part II - ⑳

江戸川木材工業株式会社

顧問 清水太郎

去る6月17日、「東海道ネットワークの会21」例会がありました。テーマは「江戸四宿の一つ内藤新宿を廻る」です。

東京駅に12名の会員が集合し地下鉄丸の内線で四谷三丁目下車①お岩稲荷を皮切りに②笹寺③四谷大木戸跡④玉川上水記念碑⑤大宗寺⑥成覚寺を巡り⑦歌行灯・東京店で総会、昼食後⑧追分道路標識を見学後⑨新宿御苑を散策し大木戸門で解散となりました。順路に従って探訪します。

①お岩稲荷 幕府の御手先組同心田宮家の武家屋敷のあったところ。邸内に稲荷社が奉られており、田宮家初代又左衛門の娘お岩はこの社を篤く信仰。夫伊右衛門とは仲睦まじい仲でありました。お岩は寛永13年(1636)逝去したが、田宮家の隆盛は、お岩の信じた稲荷社のご利益とされました。邸内の稲荷であったが、参詣を望む人が後を絶たなかったので町人にも開放し、「お岩稲荷」「四谷稲荷」などと呼ばれました。お岩没後200年の文政8年(1825)、鶴屋南北の歌舞伎狂言「東海道四谷怪談」が上演されると、怪談発祥の地とされ江戸市中から参詣者が絶えない賑わいとなりました。現当主(92才)は、お岩の血を引く女性と結婚し、たまたま秋庭会長と永い親交があったご縁で、普段は滅多に顔を出しませんが、特別にお出まし頂き、当稲荷の発祥から、歌舞伎が大当たりして、三代目尾上菊五郎、七代目市川団十郎らが参拝して隆盛を極める様をご披露して頂き、会員一同感銘を受けました。庭にある井戸(深さ16m)は今でも飲めるようです。



四谷稲荷

②笹寺 四谷(しこく)山長善寺、通称笹寺は(甲陽軍鑑)の著者、甲斐武田の家臣高坂弾正の居宅跡。その草庵から天正3年(1575)に寺院が創設された。徳川家ゆかりの寺で秀忠の念持仏であったと伝えられる(めのう観音)がある。慶応医学部の教材とされたヒキガエルなど小動物の供養塔(蝦蟇塚)が珍しい。

③四谷大木戸跡 四谷四丁目交差点あたりに甲州街道から江戸に出入りする人や物資を監視する大木戸がありました。碑石(四谷大木戸跡)は玉川上水の石樋(丸の内線工事で発見)を利用した史跡。

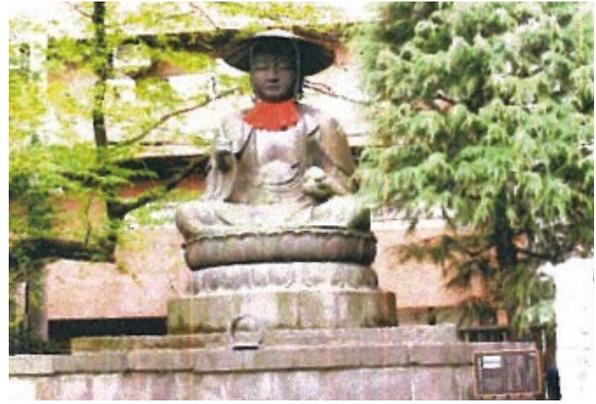
④玉川上水記念碑 江戸時代多摩川から江戸町内に引き込んだ上水完成記念碑。ここは、玉川上水の水番所(国史跡)のあったところ。上水を引いた理由、工事に当たった玉川兄弟の苦労が52文字の



四谷大木戸跡碑



玉川上水記念碑



大宗寺地蔵菩薩・甲州街道守護



内藤家下屋敷庭園



甲州街道・青梅街道の追分

漢文に縷々述べられている。(名碑中の名碑)といわれている。明治18年(1885)建立。

⑤大宗寺 内藤家の菩提寺。江戸六地蔵の一つである。地蔵像あり。近くに住んでいた夏目漱石が幼少期に地蔵をよじ登って遊んだことが「道草」に書かれています。閻魔堂5.5mの閻魔が鎮座し、その横には恐ろしい顔の奪衣婆像が睨みを利かせています。

⑥成覚寺 内藤新宿の投げ込み寺と云われ、遊女を夜陰にこの寺に投げ込んだという。「子供合理碑」はその供養塔。江戸の戯作者で「金々先生栄華の夢」「鸚鵡返文武二道」の著者恋川町駿府小島藩重臣の墓もあります。

⑦歌行灯・東京店で総会、昼食後

⑧追分道路標識 甲州街道と青梅街道の分岐点 某ゼネコンに勤務していた50年以上前、新宿周辺で追分作業所があり、追分とは単なる地名であると思っておりました。街道歩きをするようになって、信濃追分など、分れ道を追分といわれていることを知りました。語源は牛や馬など家畜を移動させて二股の地点で左右に追い分けることから、分岐点を追分と呼ばれるようになったことを知りました。追分道路標識は甲州街道と青梅街道の分岐点であり歩道に記されています。追分だんごは以下の由来がありま



追分から伊勢丹を望む

す。康正元年(1455)太田持資(道灌)は、江戸城を構築中、武蔵品川の館より武蔵野に鷹狩を催し、その帰途、高井戸付近で薄暮となりました。折りしも皓々(こうこう)たる仲秋の名月は宙天に係り、月影はすすきの穂波に揺れて秋虫のすだく幽寂の風情は、道灌の詩情をさそい、家臣とともに歌の宴を張ったのであります。ときに土着の名族某、手搦き(手つき)だんごを献上しましたところ、道灌は、名月に配するだんごの風雅を喜び、その滋味を賞賛し、以来、折に触れてこれを所望しました。のちに名族某は、道灌の徳をしのび、高井戸の地において、道灌だんごと称してその製法を家伝としましたが、高井戸宿が甲州街道の始駅となるに及び上水の傍に柳茶屋と号して某の後裔(こうえい)が道灌だんごを商い、大いに繁盛いたしました。元禄11年(1698)、内藤新宿が伝馬(てんま)の宿駅となり、柳茶屋も宿の変遷とともに新宿追分に移転し、行き交う人々に親しまれ、誰れ言うともなく追分だんごと呼ばれるようになりました。

⑨新宿御苑 徳川家康を甲州路から江戸へ案内した高遠藩主内藤氏はその功により、馬が走って描く円内の土地を賜りました。その一部が新宿御苑です。

脇に玉川上水が通りますと、水を引いて池を作りました。下屋敷当時から玉藻池は面影を今に伝えております。一行は表門から入り、咲き乱れる花を愛で、樹齢400年の鬱蒼とした森をくぐり庭園内を散策し、大木戸門で流れ解散となりました。



東海道ネットワークの会21の仲間